

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス アニマートもとみや				公表日	2025年 3月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		祝日や長期休みの時に外出予定がある日に、職員の休み(有給)が重なると人手が足りないと感じるときがある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		事業所が2Fにあるため、階段を使用しなければならぬ。	手すりの取り付け可能であれば、つけてほしい。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		パーテーションを使って、活動スペースと学習スペースに分けている。	定期的にジョイントマットの交換をする。制作物や材料などが整理されていないことがあるため、整理していく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		月に1回以上は、職員会議や内部研修を実施している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		今後、外部からの第三者評価してもらうように委託する。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人内で各委員会を定期的に開催している。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		モニタリング会議等で積極的に情報交換や意見を言うようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		障がい特性や子どもの学年に応じて工夫をしている。			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		長期休みや活動プログラムは毎回飽きないように職員同士で立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎日事業所の様子など、ケース記録として記載・保管している。	
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		情報提供する準備はしているが、相談員、学校で必要ないとしているところもある。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2		
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		今後、外部からの第三者評価してもらうように委託する。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		今後、外部からの第三者評価してもらうように委託する。
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		連絡帳や送迎の申し送り等で利用児童の様子を伝えている。	
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月通信は発行している。	一方でfacebookやインスタなどのSNS投稿頻度が減少しているため、今後増やしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		毎月確認、共有し、同様のヒヤリハットが怒らないように対策している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会の会議や内部研修を定期的に行い、虐待防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束委員会を設置し、定期的に会議や研修を行っている。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童デイサービス アニマートもとみや

公表日 2025年3月14日

利用児童数 23人

回収数 19人

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	3			大きい部屋で目が届くので、安心して います。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	2				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	11	2		・階段が少し急かなと思う。 ・外階段に手すりや滑り止めがあると良いと 思う。 ・冬場の階段の凍結が少し怖い	階段の雪かき、融雪剤を撒いて転倒リス クを少しでも軽減しております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支 援が受けられていると思いますか。	19					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	19					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	19					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	19					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	19				・休み期間中など色んな場所に連れて行って もらってありがたい ・いつも遊びや工作を他の子と一緒にさせて もらって満足している。	引き続き、活動プログラムやイベントが 固定化しないように努めて参ります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会 がありますか。	9	8	2		求めている	今後、地域の子供達とも交流する場を設 けていきたい。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	19					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	19					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	19					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況に ついて共通理解ができていると思いますか。	19				利用日には必ず教えてもらっている。	連絡帳やSNS、送迎の引継ぎなどを通し て情報伝達を行っております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19				・いつも話を聞いてくれる。 ・親子共に親身に考えてくださり、本当に感 謝しています。	個別支援計画更新の時期を目安に、定期 的に面談を行っております。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	1	1		求めている	年に1回、保護者会を開催して、保護者 同士の交流の場を設けております。	

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18			1	いつも丁寧な対応でありがたい	今後も、相談の申し入れや苦情等あった場合は、早急に対応致します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19				写真楽しみにしています	毎月通信、活動予定表、おやつメニュー表は配布しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	1			今のところ、不快感や不安感を感じられません	今後も、安心して児童を預けられる居場所作りをしていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことをやらせてもらっているので楽しく通っている</li> <li>・先生やお友達が大好きで楽しく通っている</li> <li>・早く迎えに行くと、「まだ帰りたくない」と楽しい様子</li> <li>・すごく楽しみにしています。</li> </ul>	継続して、「楽しかった、また行きたい」と子供達が思ってもらえるような事業所運営を心がけていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休みも通出してもらったり、助かっている。</li> <li>・職員が明るい優しい方々ばかりで親も大変満足している。こちらを利用して良かったと思っている。</li> <li>・色々な体験をさせて頂いたり、家ではなかなか連れて行けないところに連れてくださり、とても</li> </ul>	今後も様々な体験を通して、子ども達の成長を見守っていきたいと思います。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス アニマートもとみや		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達特性に応じて、活動スケジュールの確認やコミュニケーションの手段としてのカードを用いる等の視覚的支援を提供している。	・帰りの送迎は、送迎車・車種・職員・児童の名前が書いてある写真カードを大きいホワイトボードに貼り、誰がどの車に乗るか分かりやすくしている。 ・個別対応で、集団活動に参加する・しないの意志表示カードや1日の流れをを小さいホワイトボードを活用して行っている。	学校や他事業所でどのような視覚支援が活用されているのを見学し、事業所の児童に対してより良い支援を提供するように努めていく。
2	活動内容は、集団で行う活動と個別で自由に過ごす時間とメリハリをつけていること。	・大きいホワイトボードに1日と月ごとの活動プログラムとおやつメニュー表を貼っている。 ・「楽しみながら遊ぶ」をテーマに様々なプログラムを組んでいる。集団活動は日ごとに違う内容にしている。創作活動は週間活動として行っている。	職員一人一人が、SSTや集団レクリレーションの質を高められるように、外部の研修や学習の機会を確保する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童間や学童クラブとの交流する機会がない。	保護者からも必要ないとの声の一部から上がっている。	高齢者施設と交流する機会はあるため、地域との交流をより深めていけるように、児童館や学童クラブに問い合わせして交流する機会を増やしていけるようにする。
2	職員の配置人数が少ない日がある。	職員の配置人数が少ない日は、予定した活動プログラムが組めず、予定が変更になってしまうことがある。	4月から非常勤職員が増える予定。事前に余裕をもって療育準備に取り組めるよう改善に努めていく。
3			